

*** 今日の健康(3月) ***

<ポリオと予防接種>

(1) ポリオの概要

ポリオはポリオウイルスによって起こされる急性の麻痺を主徴とする疾患です。抗原性の違いにより 1 型、 2 型、 3 型の 3 つの型があります。世界各地で流行を起こしているのは病原性の強い 1 型です。小児に多く発生したことから小児麻痺と呼ばれていましたが、ウイルスが標的とする部位が脊髄前角細胞であることから急性灰白髄炎といいます。感染のほとんどは不顕性感染に終わり終生免疫を獲得します。感染者の 5 ~ 10 % が軽症の上気道炎又は胃腸炎症状を呈し、1,000 ~ 2,000 人に 1 人の割合で両上下肢に弛緩性麻痺を生じ、一部に永久麻痺を残します。ときに横隔神経麻痺や延髄麻痺を生じ呼吸不全を起こし、死の転帰をとることもあります。鑑別診断としてギランバレー症候群が重要です。日本では昭和 35 年に 5,600 例を越える流行がありましたが、ワクチンの導入により 1981 年の 1 例を最後に野生株によるポリオの報告はありません。ポリオの宿主はヒトだけで、他の動物への感染は無く、媒介する生物も生存しません。したがって感染は糞便中に排泄されたウイルスが経口的に生体に侵入するヒトからヒトへの伝播のみです。

(2) ポリオは痘瘡に次いで根絶可能な疾患です

WHO の根絶計画により世界各地でポリオ発生は減少傾向にあります。南北アメリカ大陸では 1991 年のペルーの患者を最後に発生がなく 1994 年には根絶宣言が出されました。日本が属する西太平洋地域では 1997 年のカンボジアの患者を最後に発生がなく、2000 年に根絶宣言が出されました。中央及び西ヨーロッパでは 1998 年にトルコの患者を最後に報告はありません。南・北・東アフリカ、アラブ半島でも発生の報告はありません。しかしながら、依然として 70 の国々ではポリオが存在しており、1999 年にチェチェニア(ロシア)、パキスタン、インド、中央・西アフリカ等で 7086 例の患者が報告されています。

(3) 予防接種の効果と副反応

2 回の投与による免疫獲得率は 1 型と 2 型で 90% 以上、3 型で 80% 以上です。しかし、昭和 50 ~ 52 年生まれの者については抗体保有率が低いことが確認されており、追加接種をすることが勧められています。ワクチン接種による副反応はほとんどなく、100 ~ 300 万人に 1 人以下の頻度で、接種された小児(vaccine associated、接種から 4 ~ 35 日平均 15 日)に、弛緩性麻痺を生ずることがあります。きわめてまれですが、排泄されたワクチンウイルスの感染(contact case)によって発症したポリオの報告があります(頻度は 590 万人に 1 人)。日本の感染症サーベイランスのデータでは、年間それぞれ 1 例程度報告されています。ポリオ接種後に発熱、風邪症状の後に上下肢等の弛緩性麻痺が見られた場合には、速やかに医師の診察を受ける必要があります。